壬生野小だより

伊賀市立壬生野小学校
2024年2月13日①
発行責任者　藪中　俊典

5年生　第2回みえスタディチェック(2/8)

2月の「第2回」は、5年生のみを対象に実施されました。今回は、これまで「まなび～」で出題をしてきた問題と似た問題がかなり出題をされていたので、学習の成果が試される問題であったと思います。5年生の子どもたちが回答している様子からは、以前より、どの子どももしっかり自分なりの解答を書いていました。これからも「学び」から逃げず、真摯に、学習課題に向き合う姿勢を持ち続けてほしいです。

2年生　昆虫の森についての学習(1/30)

～「みえ森と緑の県民税」を活用した「伊賀の森っこ育成推進事業」～

次世代を担う子どもたちの森林・林業への理解と関心を学校教育の場でも学べるよう、伊賀市では、上記の事業を、市内の小学校で実施をしています。

本校では、本校の近くでお借りしている「昆虫の森」を、カブトムシやクワガタが生息する森にしようということで、数年前から、２年生が、「ほだ木」へのしいたけ菌の打ち込みを行っています。しいたけの菌打ちと昆虫の生息がどうしてつながるのかというと、しいたけの菌を打ち込んだ「ほだ木」を「昆虫の森」に置くことで、数年間はしいたけを収穫し、その後の朽ちた「ほだ木」にカブトムシやクワガタが卵を産み付け、そこで、幼虫が育つということです。

今年も、2月13日（火）には、２年生がしいたけの菌打ちを行いますが、それに先立ち、１月３０日（火）に、本校の元校長であり、また、伊賀市の環境保全活動に長年取り組んでおられる辻喜嗣さんに来校いただき、今回のしいたけの菌打ちと昆虫の育成のつながりについてお話をしていただきました。辻さんからは、木が朽ちていく様子を、実際の木を使って説明していただきました。「この中にもきっと幼虫がいるよ。」と聞いた子どもたちは興味津々に木をのぞき込んでいました。その後、実際に「昆虫の森」まで歩いて行き、辻さんが作られた「幼虫のすみか」や、これまでのお兄さんやお姉さんのしいたけの原木にしいたけがなっているのを見学しました。また、そこにあった朽ちた木の中に幼虫を発見し、子どもたちは大喜びでした。

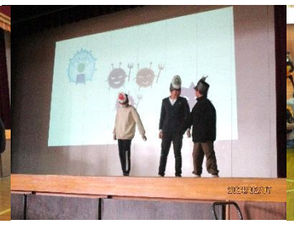
辻さんからは、前日に鵜方（志摩市）まで行ってもらってきた10数匹のカブトムシの幼虫が潜っている堆肥の入った容器もいただきました。夏には、カブトムシの成虫が出てくるということなので、子どもたちと楽しみに待ちたいと思います。

6年生　「人権学習以外の日常こそ重要　～他人より自分を変える～」

松村元樹さん(ヒューリアみえ)との出合い直し(2/1)

１学期、元樹さんとの出合いをきっかけに、自分のことを見つめ始めた６年生が、卒業を前に、再び、元樹さんと出合い直しの機会を持ちました。今回は、テーマにもあるように、人権学習の時だけなく、普段の自分自身の言動が相手にどんな思いをさせているか、あるいはさせてきたかを考えることが大切であるということを振り返りました。お話の中では、差別をした側は、相手を傷つける・差別する意図はなくても、差別された側に、「否定・侮辱・疎外」感をもたせてしまうことがあり、それを、「無意識の日常的差別（マイクロアグレッション）と言うことを教えてもらいました。例えば、障がいがある方との出合いの中で、「障がいがあっても、同じ人間だと分かりました。」といった感想を持ったとします。それは決して誤った認識であるとは言えませんが、その出合いの前までは、自分は、「障がい」がある人のことをどのようにとらえていたんだろう。「同じ人間」ということばで、「障がい」がある方が受けている理不尽な扱いまで、「ないものにしてしまっている」自分はいないだろうか。そんなことを振り返ることが大切であると教えてもらいました。同じように、友だちから被差別地区出身であると打ち明けられた時、「私は気にしないよ。」「そんなん関係ないやん。」と思いを返す人がいて、確かに、こうしたメッセージを返すことも大切だけれど、多くの当事者の方は、「気にしてほしいし、自分にも関係があるって思ってほしい。」という思いをもっているということも教えてもらいました。つまり、相手を「否定・侮辱・疎外」する意図はなくても、私たちが「当たり前」と思っている見方・考え方・とらえ方により、無意識のうちにその人を傷つけ、自由を奪ってしまっていることがないか、いつも考えてほしいというメッセージをいただきました。

私たちは、ついつい相手が変わることを望んでしまいがちですが、人権・同和教育では、まずは自分に指を向けて、自分自身を見つめ直すことを大切に学習を積み上げてきています。

水曜集会(2/7)

今回の水曜集会では、給食委員会、保健委員会、スポーツ委員会、栽培・掲示委員会からの発表やお願いがありました。給食委員会は、給食着の正しい着用の仕方など、給食に関するクイズを出題しました。保健委員会は、感染症予防として換気が大切であることを劇で発表しました。スポーツ委員会は、「正解！」と思うコーンの場所に移動するといった動きも入れたクイズを出題しました。最後は、栽培・掲示委員会からは、花壇に入らないようにしてほしいというお願いがありました。それぞれの委員会の工夫が見られた発表でした。